

をさせたらよからうかと思ふればかりでなく物にあらたころにこれを行つたならば姿勢を正しく心氣を一轉して新しき勢力を得させることが出来るから行つたらよからう

三、教育上に鏡を用ゐること

發音の矯正に鏡に向はせて口の形舌のつかひ方をなほすことは効果あるものであるこれは先年博覽會に於て偶然に發見して用ゐたのである鏡を用ゐるのはこれのみでなく平面圖を理解させるにも効果がある生徒に地圖を示しても平面を理解させるのが困難でありしが或時物の置かれし處を鏡を用ゐて上からうつして見せた所がよく平面圖を理解することが出来たこれも幼稚園にも應用したならばどうであらうかと思ふ

◎臺所の疫病神

二宮翁は、台所や流しの窓を反古紙で張ることを大變に嫌はれた、反古で張ると只さへ暗い台所は益々陰氣になりて貧乏神の宿に持つて來いと云ふ様になる、それだから奥座敷でも何處でも反古で張つて差支ないが、流し元の窓だけは白紙で張ると常に云はれたさうである。

兒童の個性及其取扱法

文學士 松本孝次郎

次には孤立的兒童と申しまして他の子供とはると云ふことの性質を缺いて居る、さう云ふ特別な個性を有つた者があります。それはどう云ふやうな子供かと言ひますと、例へば幼稚園に行きましても他の子供とは少しも遊ばない。自分獨りだけ廊の方に離れて仕舞ふ。それは唯だ他の子供に近付かない許りては無い、保母の側にも中々近付かない。口は利かないで黙つて居ると云ふやうな風の性質の子供で、之を孤立的兒童と言ひまして、詰り子供としての社交的の性質を全く缺いて居る子供を言ふのです。是れはどう云ふやうな場合に多く起つて來るかと言ひますと、或場合には疑惡的の性質を餘程餘計に持つて居るやうな子供が斯う云ふやうな有様を呈します。其疑惡的の性質がどうして養はれたかと思ふと、例へば多くは違つた親の手に育つてさうして割合に残酷な扱ひを受けたと云ふやうな所からして、他の人に對する信用と云ふ精神を少しも持つて居らぬやうになる。入を見ればもう直ぐに自分に對して苦痛を興へる者ではないかと疑やうな話、さう云ふやうな場合に疑の心と云ふものが多くなつて來まして、他の人どうして近付くことをば厭やがると云ふ風になる。さう云ふやうな子供には屢々外部から見て幾らか痴鈍ではないかと思はれる容子の子供があります。例へば指を咬へて居るとか或は唯だ他

の子供の容子を見てさうして笑つて居ると云ふやうな風の子供がある。併し孤立的の子供には實際眞から馬鹿であると云ふやうな手供は少ない。其孤立的になつたと云ふ原因を探究して見れば、精神の痴鈍な爲めでは無い、智力が多少發達して居る爲めに、また自分が此人に接近して禍を受けはしないかと云ふ風に考へることが出来る所からして、どうしても疑の心を持つので、却て智力が多少は發達して居るやうな場合に此孤立的の性質を持つのがあるのです又或場合には家庭で以て其子供を非常に大事に取扱つて子供の部屋よりは外に出さなかつたとか、或は年寄が始終側に付いて居つて唯だ年寄だけの手で以て何時でも大事を取つて育つて居つたと云ふやうな場合に於きまして、矢張りそれ迄の間に社會的の愉快をば感ぜしめない所からして孤立的の性質が起つて来る。詰り他の子供と近付かしまると云ふ機会を餘り作らなかつた爲めに社會的の快樂と云ふことをば經驗して居らぬからして、自ら求めて他の人と近付くと云ふやうな事をばしないやうになつて仕舞ふのです。それだからして他の者に近付けないと云ふことは、悪い感化を受けしめないといふ方から言ふと、丁度疊の上で水練を稽古しやうと云ふやうなものであつて安全には違ひない。けれどもそれでは又完全なる教育は受けられないのです、だからして能く其友を選んで成るべく危険な事のないやうにして社會性か養ふと云ふことが子供に取つてどうしても必要なのです。多くは老人杯が家の中に引つ込めて置いて育つた子供に斯う云ふ風な性質を形造るやうになる。斯う云ふやうな子供は自分が知つて居る事でも夫れを發表するのを厭がるものであります、それも矢張り幾らか

疑の爲め或は是迄他の人に接して居らなかつたと云ふ事情の爲めに之を發表することを厭がるものである。それでありますからして成るべく斯う云ふやうな子供に向つては、能く知つて居る事を發表させるやうな機会を作らねばならぬので、詰り子供が答を與へると否とに拘はらず、此方からして屢々發言を試みると云ふことが餘程大事なのであります。此類の子供は幼稚園では凡そ三ヶ月間も費す積りであるならば、此孤立的の性質を矯正することが出来ます。其方法は若し其子供の家の側からして矢張り幼稚園に來る子供がありますならば、成るべく最初は餘所の子供に誘はせると云ふやうな方法を採ることが大變に宜しいです。若し其子供だけでも幼稚園に來ることを厭がるならば、矢張り其家の人とそれから誘ひに行つた子供と其孤立的の子供と初めは一緒に通ふて來ると云ふことが大變に必要です。さうして其孤立的の子供に近付ける方の子供はどう云ふ子供を選んだら宜いかと云ふと其組の中でも性質の好い幾らか智力の發達した子供を選んだ方が宜い。詰り稍々優等な子供を選んだ方が宜い。さうして其優等な子供には、矢張り保母の方と一緒に遊んでやつて呉れるとか、一緒に仲を善くして呉れるとか云ふやうな趣意を知らしめて置く方が宜い。詰り言はゞ自分の方から移めて友達になつて行くと云ふ態度を持たせるだけの目的をば此方で以て示して置く方が宜いのである。それからして幼稚園に於て初めから團體の中に無理に其子供を入れやうと云ふやうなことは務めないで宜しい。唯だ傍らに置いて見せ置けば宜しい。詰り他の子供が社會的に遊んで居る、或は一つの團體を成して遊戯をして居るのを見て、自然の間

に如何にもあれは愉快さうなものであると云ふ感じを持たせるやうな事が出来ればそれに、依つて即ち社交的の精神が起つて来るものであるから、先づ初めは其興味を惹起するだけに愉快なる遊戯と云ふものゝ方法を此方で示すと云ふことに務めれば宜しいのです、伊ながら唯今申す通り孤立的の子供は自分から發表するを好みませぬからして、其仲間入りをするると云ふことに付ては此方で仲間入りの出来る機会を作つてやらなければならぬ。即ち保姆の方で時々はその仲間に入れて見ると云ふことをして之を誘ふことか大變に大事です。さう云ふ類の子供は今お話するやうに二三の優等な子供に吩咐けて接近させると云ふことも大事であるが、又成るべくならば保姆自身が其子に接近すると云ふ手段を執ることも務めなければならぬ。此類の子供は保姆が多く言葉で以て親切に言ふてやるよりは、其子供の身体に直接に親切の意を示すやうな方法の方が却て効力が多い。例へば其子供の手の汚れて居るのを拭いてやるのが洗つてやるとか、或は鼻液の出で居るのをかんでやるとか、或は其子供の手を持つてやるとか、頭を撫つてやるとか云ふやうな風に、言葉で言ふよりは、身体に直接に接觸して親切を現はすと云ふ方法の方が効力が多い。さうして其類の子供は自分が手を引かれると言つても、特別な子供で無ければ厭がるものであります。始まりからしてどの子供にでも手を引かれると云ふことは好まないで、自分が接近して少しも疑を懐かない、先づ此子供ならば安心だと感じた子供だけに手を引かれるものでありますから、強いて他の子供と手を引かせるやうな事にしないで、自分から悦んで手を引かれると云ふ子供に手を引かせて置く

方が宜い。さうして請り社交的の愉快と云ふものを感ぜさせて、それからして又他の優等な近い子供をば其中に新に加へると云ふやうな方法を探つて、段々に實際の範圍を擴めると云ふ手段を執ることが餘程宜しいのです。それで最初は遊戯の中に遣入ることは出来ぬにしても、行進の時には何時でも其中に入れてやるると云ふことを忘れてはならない。或は行進の度數をば一日に何度か殖やすと云ふやうな事も必要である。必ずしも全体の子供の行進と云ふことで無くても宜いから、特に其子供の爲めに短い時期の行進を作ると云ふことも餘程必要である。さうして其行進の場合に、最初の中は成るべく保姆は其子供に近い所に居る。それから其子供の傍らには其子供が平生接近して居る所の親しい友達を選んで置くると云ふやうな事も必要な注意であります。假令此様な孤立的の性質の者で社交的の興味を持たない者でありまして、智力が缺乏して居る者の外は必ず模倣性には富んで居るものでありますから、幼稚園で保育して居る所を見てそれに模倣して其通りをやつて見ると云ふことは必ず出来るに違ひない。即ち痴鈍で無い者でありますならば、必ず保育の方法をば覺えられないことは無いでありますから、發表はしないで其子供は知つて居るものと略ぼ認めることが出来る。唯だ多勢の前でやつて見ない、或は唯だ多勢の中に遣入らないと云ふ迄であります。今申したやうな方法を以て致しますならば、普通の幼稚園の組織に於きまして、凡そ三ヶ月以後には随かに孤立的の子供が社交的の性質を現はすのを見る事が出来るやうになります。それから斯う云ふやうな種類の子供は將來に於てはどうであらうかと言ひますと、將來に於



てはそれ程心配するには及びませぬのです。一度社交的の興味を感じますと云ふと、従來の性質は段々に革まつて参りまして、終には少しも心配するには及ばぬやうな普通の子供になつて了ふのであります。で或る場合には子供が發達することが不十分である爲めに一時現はす所の孤立的の性質の子供と、それから個性として有つて居る所の性質の子供との區別を立てることが非常に必要である。割合に智力の發達が遅いやうな者でありまると、他の子供と共に遊ぶと云ふことの愉快を知りませぬ。詰り自分獨りで以て例へば庭に出て居つても木の葉を摘んで居ると云ふやうなことで満足して居る場合があります。是れは個性として孤立的になつて居るのでは無いので、また其智力が充分に發達して居らぬが爲めに他の友達即ち生きて居る所の者と遊ぶことを知らないのです。それは全く唯だ一時智力の發達が不十分な爲めに現はす所の現象でありまするからして、さう云ふのは直きに其孤立的の性質は失ひます。けれども今私が個性としてお語致しました孤立的の兒童と云ふのは、唯ださう云ふやうな簡單な事情から來るのではありませぬから、どうしても此性質を失はしめるのには割合に永い時日を要するのであります。

次には弱志的兒童、意志の極く弱い個性を有つて居る所の子供に付て言ひます。此意志の極めて弱い所の子供と云ふのはどう云ふやうな有様で以て現はれて來るかと言ひますと、自分で或る事を考へても何處迄も之を實際に行ふとか、之を實際に現はすとか云ふやうなことを能うしないのです。詰り目的を充分に達すると云ふこと迄はやらないのです。兎角引ツ込み思案と云ふ方で少し勇

氣があつてもマア止さうと云ふ風で途中で直きに止めて仕舞ふのです。それからして此弱志的の子供は直きに助けを他の人に求めるのです。自分がやらないで直きに他の人にやつて呉れと云ふことを言ふのです。俗に所謂どうも氣が弱くて何も自分でしないで困ると云ふ、斯う云ふ子供が即ち弱志的の子供であるのです。此類の子供はどうして斯う云ふやうな性質になつて行くかと言ひますと、或る場合には智力と云ふものが充分に發達しないと斯う云ふやうな有様を現はすことがある。詰り其智力が充分發達しませぬと云ふと決斷と云ふことが不十分なのです。自分で實際行に現はすと云ふ所迄決斷が出来ぬで了ることがありますから、それが爲めに弱志的の状態を呈するので、それから又或る場合には子供の世話を餘り多くやき過ぎますと云ふと弱志的になります。詰り云ふと俗に申します察しの善いやうな人が子供の側に附いて居ると云ふと動もすれば弱志的の子供にしてしまふのです。詰り子供の要求する必要な事が前に既に分つて居るので、それを其通り充分満足させるやうに傍からしてやつて仕舞ふのです。やつて仕舞ふからして子供が自分自身で働く部分が非常に少なくなるさうすると弱志的の子供になります。何故子供が自分自身で働く部分が少なくなれば弱志的になるかと言ひますと、餘り子供に何事もさせないやうな方法を探りますと云ふと、子供自身が自分の力は何の位あるかと云ふことを認むる機會に少なくなつて來るので、即ち自分の力をば恃みにすると云ふやうな自主自立的精神が減つて來るのです。そう云ふ事の爲めにどうしても意志が弱くなつて参ります。此類の子供をば直しますものには、一方

からは智育を矢張り餘計にやつて行かなければなりません。其子供の智力を養ふと云ふ方の手段はどうしても執らなければならぬ。智力を充分に養ひますると決斷も能く出来るし、又或る事柄に注意を充分に集めることも出来るやうになりますから、どうしても此類の子供には智力の養成と云ふことを決して缺いてはならないのです。尙ほ其外に此類の子供には、己れの方を用ひて働いた時に其働いただけの結果が能く現はれ易いやうな遊戯を多くやらせた方が宜い。例へば碁を投げると云ふやうな事でも其子供が力を用ひるとが多ければ遠くの方に行き、力を用ひることが少なければ遠くの方には行かない。即ち其方に此例して其處に結果がチャンと現はれて来る。或る作業の中でも其處で製作品が出来ると云ふやうな作業でありするならば、自分の力を用ひた結果が其處に明かに現はれて来るのである。即ちお前は是れだけの力があるぞと云ふことを傍らからして諭してやりましたならば、自分にも斯う云ふ事が出来たかと云ふことを感するやうになります。己れ自らが己れの方を自覺して自分で今度は物事をやると云ふ精神が養はれて行くのです。それでありますから此類の子供にはさう云ふやうな類の遊戯を多くやらせると云ふことが非常に必要です。夏の天氣に夕立杯が降つて来ると云ふやうな場合に、庭に砂山を築かせて其砂山が夕立の雨に對して、どれだけ抵抗するところが出来たか、即ち雨の上がつた後と見て砂山の姿がどの位變つたか、さう云ふやうな事をやらせて見るのは、子供に自分の力を認めさせる宜い方法である。或は海岸の地方であると波がやつて来ますが、其波に堪へるやうに海岸の砂で以て砂山を造らせて

見て、一度波の去つた跡にどれだけの形が残つたか、さう云ふやうに其力を較べさせて見ると云ふことは、詰り子供の力を自覺させる所の好い手段です。即ち弱志的の子供に向つての一つの好い取扱ひ方であります。意志が頑固であると云ふことは無論悪い事でありませぬけれども、頑固の正反對で意志の脆弱と云ふことも亦た悪い事でありませぬから、子供を取扱ふ上に於て之を矯正する必要があるのであります。

是迄お話しした所ではまだ充分に總ての個性と云ふもの、お話は盡きて居りませぬですけれども、併し幼稚園杯で普通に現はれる所の主なる個性に就てはお話しした積りでありますから、私の話は是れで止めて置きたいと思ふのですが、世間を見ますると、子供を取扱ふと云ふ事に付て割合に自尊心の多い人が先づ普通である。詰り自分が子供の時に受けた仕付け方に依て子供を仕付けて見るとか、或は唯だ自分の意見に依て子供は斯う云ふやうに扱つた方が宜いと云ふ考を持つて居る人が多いのです。其考にばどれだけの學問上の基礎があるかと云ふ事を調べて見ると、割合に學問上の基礎は乏しいと云ふやうなことが多いのであります。随分公平な考を持つて居る人でありませぬ、子供を取扱ふ事に付ては、ナアにさう特別な事をするには及ばない。自分の常識を以てやつて行けば間違ひは無いと云ふやうな考を持つて居る人が多いのであります。それは恰も病氣の際に於ける素人療治と同じことで、何時でもそれで安全であると言ふて恃みにして居ることは出来ぬのであります。子供を取扱ふと云ふことは矢張り一つの専門の技術であるから、必ず子供を取扱ふに付ては特別なる教育を受けなければ

ばならぬものだと言ふ考を成るべく世間の家庭に擴げたいものである。今日の幼稚園の保育法と云ふものを一方では幼稚園内だけで充分に改良すると云ふことも肝要でありますけれども、之を世間に普及して家庭に於ての子供の遊び方の中にも此保育法の精神をば入れるやうにしたいと私は希望するのです。現在の日本の社會に必要な事は、保育法の普及と云ふことにあらうかと思ひます。世の母親には一つの課題として子供の遊ばせ方と云ふ事は教へる必要があるやうに思ひます。それで今日皆さんが幼稚園の事だけで無く、家庭に向つても保育法の普及と云ふ事に付て御盡方になりましたならば、餘程有益であらうと思ひます。(完)

◎御飯の炊き方(山下たかね氏)

△米のとき方

米は磨いで直ぐ炊くのは好くない、朝飯は前夜晝飯は朝磨ぐ様に一食位前に準備して置くのが必要である、そして洗つた米は夏は二時間位、冬は三時間位も水に浸して後能く水を切つて炊くのです、併し新米を水に浸くとは能くない、此く水に浸した米は御飯を炊く時、少し水加減の控へるのは勿論である。米を浸したことに依りて得る利益は

- 一、粘りがあつてうまい。
- 二、煮熟が完全だから消化し易い。
- 三、浸さない米の御飯に比べて一割半増える。
- 四、薪に二割も得がある。
- 五、御飯の出来る時間が早い。
- 六、御飯の腐りが遅い。(家庭の榮)

幼兒の遊戯は如何に指導す可きか

後藤ちとせ

本篇は同氏が嘗つて本會幹事任職の頃折々に物せられたるもの、由にて久しく筐底に藏されしを頃者乞ひ得て誌上に掲ぐることを得たり。保育事業に熱心なりし同氏の思想は確かに會員諸君を益するもの多からんと信す。

普通遊戯とか子供の遊びとか申すのは子供の遊び全体を指すので即ち保育事項全体を含んだ廣い意味でつかつたので御座います、特に幼稚園遊戯と云ふのは四つの保育事項即ち談話、唱歌、手技、遊戯の中の遊戯で所謂狭い意味の遊戯を指すのであります。従つて遊戯と云ふ言葉の中には廣狹二様の意味がある譯でありますが是から御話致さうと思ひますのは即ち狹義の遊戯を云ふのであります。

遊嬉の種類
小學校令施行規則中幼稚園に關した規則中に遊嬉ハ分チ隨意遊嬉及ビ共同遊嬉トナス